

# 第六十三回全国高校サッカー選手権大会 経費決算について

母校サッカー部の全国大会出場に際し、同窓生の皆さまより多大な御支援・御援助を戴き本年一月二十五日に、サッカー全国大会出場報告会が、PTA役員・同窓会役員・後援会役員の出席を得て行なわれました。席上、左記の決算書案の承認と残額の使途につき御検討いただき、御報告申し上げましたので御報告申し上げます。

なお、会計監査は同窓会幹事岩崎正雄氏（十二回卒）、後援会より水嶋俊郎氏、PTA池田 徳氏にお願いいたしました。

なお、支出の部選手強化費は、

### 昭和59年度 第63回全国高校サッカー選手権大会 経費決算書

収入	金額	10,000,000円
前回補助		21,035,493円
寄付		659,920円
雑収入		9,821円
計		31,705,234円
支出		
派遣費		5,507,255円
選手強化費		2,068,724円
応援費		2,804,020円
生徒応援費		4,660,300円
事務強化費		1,521,680円
選手強化費		14,800,000円
計		31,361,979円
収入		31,705,234円
支出		31,361,979円
差引		343,255円

藤枝東高校の校地には数本の桜の木があります。正門の左側の隅の桜は毎年入学式前後に花開き、新入生を迎えてくれるのです。かつて、東海道の白子通りから校門に至る道路の両脇にはかなりの数のプラタナスが並木をなしていたのですが、今ではその数もすっかり減り、五本を数えるのみとなりましたが、その中の一本、昔の森本文房具店、現在の生徒達が「森パン」と呼ぶあの店の前のプラタナスはみごとです。春先、若緑の葉が白いその幹と調和して、わらかい陽ざしを受けます。

共通一試験の関係で、千南祭（文化祭）が六月に行なわれるようになり、生徒達にとりてなかなかの季節は生徒達にとりてなかなかの多忙です。運動部の選手達も、この若葉の季節に、一斉に腕だめに練習に行きます。千南祭が終了、運動部の県大会が第一棟の東側の前の垣近くにムクゲの花が咲き、夏休みに入ります。夏休みには補習授業、運動部の合宿、二年生の修学旅行などが行なわれます。予備校に出かける者、家庭で勉強する者、そして最近、夏休み中、毎日登校して、人気のない教室で窓を開放し、涼風を入れながら一日中勉強するといった生徒も出てきました。

夏休みが終ると実力試験や模範試験が待ちかまえています。そして九月二十日前後に体育祭が行なわれます。色別対抗のデコレーションや応援合戦はなかなか独創性に満ちたもので、最近では町の名物になりつつあります。生徒の名前も多岐にわたりますが、スタンドにあふれるほどです。千南祭や体育祭は、平素勉強でしぼられていた生徒達が青春のエネルギーや個性を発揮し、一方仲間同士で協力してものごとをなすし、絶好の場となっていきます。

体育祭の前後に、玄関前の小さな築山の数株の桜が花をつけ、古典的彩が出てきて、も知らない生徒がおり、三年生の顔に真剣さがあふれ、おのおの目標に向かって本格的な受験勉強を始めます。やがて、西の山に沈む落暉が一段と美しく、プラタナスの葉が、文字通り一日一日と秋色を深めてゆきます。

そして、校地の植物で、冬もがらみは旧体育館西に立つ梅柳の巨木です。その実は寒風にさらされて耐えています。この季節に三年生は大学入試の試験を受けるので

# 学園の四季

藤枝東高校の校地には数本の桜の木があります。正門の左側の隅の桜は毎年入学式前後に花開き、新入生を迎えてくれるのです。かつて、東海道の白子通りから校門に至る道路の両脇にはかなりの数のプラタナスが並木をなしていたのですが、今ではその数もすっかり減り、五本を数えるのみとなりましたが、その中の一本、昔の森本文房具店、現在の生徒達が「森パン」と呼ぶあの店の前のプラタナスはみごとです。春先、若緑の葉が白いその幹と調和して、わらかい陽ざしを受けます。

共通一試験の関係で、千南祭（文化祭）が六月に行なわれるようになり、生徒達にとりてなかなかの多忙です。運動部の選手達も、この若葉の季節に、一斉に腕だめに練習に行きます。千南祭が終了、運動部の県大会が第一棟の東側の前の垣近くにムクゲの花が咲き、夏休みに入ります。夏休みには補習授業、運動部の合宿、二年生の修学旅行などが行なわれます。予備校に出かける者、家庭で勉強する者、そして最近、夏休み中、毎日登校して、人気のない教室で窓を開放し、涼風を入れながら一日中勉強するといった生徒も出てきました。

# 誠の像・詩碑建立

## 建学の精神を象徴

村誠先生の筆による「誠」という文字が刻んであります。へ初代校長錦織先生から「至誠一貫」の精神を徹底的に打ち込まれたもので、その当時を回想しつづき思いを新たに書いてみました。（河村先生の話）

詩碑は四国産伊予石で第十九回卒小川国夫先生の像に寄せた詩が刻んであります。へ誠は真言でもあり受け取ってくださいます。（小川先生の話）

なお、台座背面に今回の「誠の像」「詩碑」建立の主旨と、この学園に学ぶ者人が、日々誠を心の道標として、ひたむきに励み、飛躍することを祈念することを銘記いたしました。

昨日十一月二十日、母校中庭（創立五十周年記念事業にて同窓会で造園）に校訓「至誠一貫」のシンボル「誠の像」「詩碑」を建立し、母校に寄贈いたしました。

本年度の同窓会役員総会を六月二十三日に同窓会館で行ない、その席上、鎌田学校長より、本年は創立六十周年の選歴を経て、より新しく、高いものを求めて一大飛躍を志す意欲が深きに當り、校訓「至誠一貫」の精神を象徴化した像を建立したい旨の御提案が、同窓会より母校へ寄贈することに決まりました。

完成した記念像は高さ一・九五メートルある強化プラスチック製の青年像で、鎌田校長の御指導で日展会員彫刻家堤達男先生が制作。

へ誠に通ずる名言「日月無私照」を造型化し、左手に日輪を乗せ、右手を高くかざした健康な肉体の青年の姿（堤先生の話）

台座の白御影石には第一回卒河

同窓会の皆さん、明けましてお目出度うございます。この度の全国サッカー選手権大会出場に際しましては、物心両面に亘り格別の御配慮を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。当サッカー部におきましては五年振りの全国大会出場で、既に御承知の如く全国第三位で幕はとじました。が、鎌田監督始め選手諸君はあらゆる限りの力を振り絞って最後まで頑張りました。

さて昨年のチームを振り返ってみますと、欲をいけばきりがありませんが、技術的には今一歩といった所ではなかつたでしょう。しかし、今までの母校のチームにはなかつたナベリと速攻等、一番欲しかったもの大



## 母校サッカー部王座奪還をめざす

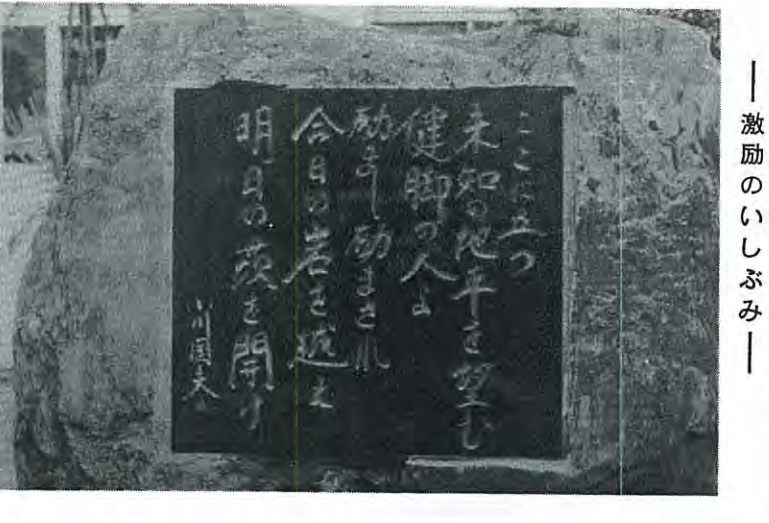
藤枝東高サッカー部OB会長  
藤枝東高サッカー部後援会会長  
後 藤 美 喜 保

切なものを、日頃の鍛錬により引き出した監督の努力手腕は高く評価してあげなければならぬと思います。さて今年には優秀な選手も多く残っておりますので、まずは徹底した体力筋力の増強、基本個人の技術の練習に磨きをかけ、チームの長い

所を活かしたゲーム運びが完成されたら、三冠王以来の強力チームも夢ではないと思えます。又他方のチームをがっちり支えているものは、校技として培ってきた六十一年の歴史と現鎌田校長先生を始めとする学校当局の御理解、PTA（田中会長）の絶大な御協力、チーム力、監督の努力、環境の良さの中で全国優勝が出来ないわけはないと私は確信致しております。最後に、母校サッカー部の選手諸君に望む事、それはやはりサッカーを通じて体力、技術、精神力を鍛えるのは勿論ですが、そのクラブ生活の中で礼儀作法を覚



在校生が日々仰ぐ誠の像



激励のいしづみ